



地域の自然環境保全の継続を



岡田 吉一さん
(稲毛田)

町の道路や地域の農道を車で走っていると、近隣の市町と比べてきれいでよく整備されていると感じます。これには、町のクリーン作戦や地域の資源保全会の活動による効果が一定程度表れているものと思われます。

さて、地域の資源保全会活動の一つとして、共同作業によって道路の縁石周りの除草や河川の土手の草刈り等が行われています。

これらの作業は農家・非農家にかかわらず、地域全員（全戸）の参加が求められていますが、実態をみると必ずしもそうはなっていないようです。不参加の理由は種々あると理解できますが、一方で、地域の自然環境や景観はきれいな方がよい、またきれいにしようとの思いは誰にでもある自然な気持ちではないでしょうか。

自分たちが生活している周辺の自然環境や景観を一時的なものではなく、継続してきれいに保っていくことは大切なことと思っています。子どもや孫の世代までも継いでいきたいものです。それには、今の活動がさらに継続できるような一人ひとりの想いと、行政の支援が欠かせないと思います。

町に求める場所



岡田 泰行さん
(芳志戸)

一つ目は、子供が遊べる魅力的な公園を造っていただきたいです。

現代の子は、友達と一緒に遊ぶ時も家の中でゲームをやって過ごしています。ゲームが悪い訳ではありませんが、外にいても子供の元気な声が聞こえない時代です。子供は外で走り、活発に友達と遊ぶことで心と体が育まれていくものだと思います。正直、芳賀町にある公園は、魅力的なものが少ないと感じます。居心地が良く、集える公園があると、子供たちの笑い声が溢れる活力ある町になるのではないのでしょうか。そういう場所が身近にできたらいいなと思います。

二つ目は、農業が盛んな芳賀町の特産である梨、苺、お米、野菜を一番おいしい時季に味わえるカフェ（レストラン）が欲しいです。

農家の方しか知らない甘い完熟した苺が食べられる。特別栽培米のおいしいコシヒカリの定食や旬の野菜を使ったメニューを味わうことができる。そして、そこで使われた農産物を直接購入できる。生産者と消費者をつなげるお店があると、町外の方への農産物のアピールやブランド化が推進され、農業がさらに盛んになると思います。また、就農者の増加にもつながっていくでしょう。私も野菜の栽培だけではなく、次につながる活動ができるよう、またより良い町になるように自分にもできることを考え努めていきたいと思っています。

居場所づくり



飯塚 敏夫さん
(西高橋)

少子高齢が社会問題化してからしばらく経ちます。周りには高齢単身の世帯や、核家族が増えました。近隣との人間関係も希薄化し、高齢者の孤独死というような悲しいニュースを耳にすることもあります。

新たな人間関係を築きたくてもどこへ行けばいいのか、気軽に集えるようなお洒落なカフェやお店がありません。

そこで、町では自治会主体での「居場所づくり」に取り組むそうです。私の地元では、有志を募ってそばを振る舞い、地域の方々相互の繋がりをつくるきっかけにしたいとの準備を進めています。定年後、地元の同級生とともに生きがいサロンでそば打ちをしているので、私もお手伝いする予定です。

何でもかんでも行政まかせでは地域の発展は望めません。一人でも多くの方がこの活動に賛同し、地域活性化に一役かってくれることに期待します。